

令和4年度第2回小田原市生活交通ネットワーク協議会 議事録

日時：令和4年8月24日（水）9：30～11：30

場所：小田原市役所3階 議会全員協議会室

出席者：出席者名簿参照（傍聴者3名）

○議題

・協議事項

- (1) 令和3年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業報告及び決算報告
- (2) 令和4年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業（案）及び予算（案）
- (3) 小田原市地域公共交通総合連携計画の令和3年度事業実施状況の評価（案）
- (4) 小田原市地域公共交通総合連携計画の計画期間の延長について
- (5) 生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）（案）

・報告事項

- (1) 地域公共交通計画策定調査業務について
- (2) 橘地域バス路線の再編について
- (3) 片浦地域バス路線の再編について
- (4) 配車システム「福祉Mover」を活用した取組について

・その他

○意見交換等

・協議事項（1）令和3年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業報告及び決算報告	
（事務局）	資料1及び資料2に基づき説明 （委員より質問・意見等なし）
（会長）	承認として取り扱うことでよろしいか。 （全員賛成）
（会長）	それでは、承認とさせていただきます。

・協議事項（２）令和４年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業（案）及び予算（案）	
（事務局）	資料３及び資料４に基づき説明
（会長）	県西部都市圏バスマップはなぜ縦長の形状になったのか。
（事務局）	元々、酒匂川流域の２市５町でバスマップを作成していたものであるが、当時はＡ１折込サイズで作成していた。財源を確保するため、令和２年度から足柄下郡の３町を追加して新たに作成したことから、Ａ１折込サイズでは地図が収まらなくなった。そこで、神奈川県西部広域行政協議会の都市交通部会にて形状を検討したところ、観光客に対するバス利用促進の狙いもあり、持ち歩きやすい縦長の形状が採用された。
（会長）	現在の形状では重量があり印刷費も高い。もう少し違った見せ方もあるのではと思っている。都市交通部会は誰が委員なのか。
（事務局）	２市８町の交通政策所管の職員である。
（会長）	実際に運行されている事業者や利用されている方の意見が非常に重要になってくるため、今後は、意見を伺うとともに、形状の見直しも検討いただきたい。
（事務局）	承知した。
（副会長）	生活交通ネットワーク協議会の作業部会を設置されるとのことだが、構成員はどう想定されているか。
（事務局）	市内バス事業者４社、吉田会長、事務局という構成を想定している。協議の内容に応じて臨機応変に調整したい。
（会長）	協議会規約第７条に、「必要に応じ協議会に作業部会を置くことができる。」との規定もあることから、運用上も支障はない。 その他よろしいでしょうか。 それでは、承認として取り扱うことでよろしいか。
（会長）	（全員賛成） それでは、承認とさせていただきます。

<p>・協議事項（３）小田原市地域公共交通総合連携計画の令和３年度事業実施状況の評価（案）</p> <p>・協議事項（４）小田原市地域公共交通総合連携計画の計画期間の延長について</p>	
（事務局）	資料５及び資料６に基づき説明
	（委員より質問・意見等なし）
（会長）	それでは、現行計画の計画期間については、１年延長するという事で取り扱わせていただく。
<p>・協議事項（５）生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）（案）</p>	
（事務局）	資料７に基づき説明
（会員Ａ）	資料 p.1 伊豆箱根バス株式会社の今回導入台数「49 台（49%）」と記載があるが、「49 台（100%）」の誤りではないか。
（事務局）	ご指摘のとおりであり、修正する。
（会長）	他にご意見等ありますでしょうか。
	（その他、委員より質問・意見等なし）
（会長）	ご指摘いただいた箇所を修正の上、承認いただくということによろしいか。
	（全員賛成）
（会長）	それでは、承認とさせていただきます。
<p>・報告事項（１）地域公共交通計画策定調査業務について</p>	
（事務局）	資料８－１、８－２に基づき説明 ※資料８－２については、企画提案資料であり、非公開情報を含むため、取扱注意とする。
（会員Ｂ）	市民アンケートの配布数 4,000 票は少ないのではという印象を受ける。 また、企業向けの調査については、各事業者に送迎状況を確認し移動の手段を把握することも一案ではないかと考える。
（事務局）	配布数については前回計画策定時に 4,000 票としたためそれを参考にした経緯がある。市民アンケートで拾い切れないデータについては、委託業者から提案のとお

	<p>り、携帯ビッグデータを用いた分析等にて補完する予定である。</p> <p>企業向けの調査については、今後委託業者と協議しながら、調査対象をリストアップし、送迎実施状況について把握する予定である。</p>
(会長)	<p>配布票数については、地域・年齢層の偏りが無いことを前提とすれば、1,200～1,300票ほど有効回答数があれば問題なく分析できる、という統計学的な検討を元に決定されたかと思う。</p> <p>他方で、企業送迎の件については、折角送迎車両活用可能性を調査するのであれば、通勤実態についても合わせてフォローできると良いかと思うので、ぜひよろしくお願ひしたい。</p>
(会長)	<p>現在、国から補助を受けている地域間幹線系統路線については、計画に位置付けないと今後は、補助が受けられなくなる。小田原市域内にも幹線系統の補助を受けている路線があるが、計画への位置付けに当たっては、近隣市町の計画との整合・調整が必要不可欠となる。一方で、県が地域公共交通を策定し、位置付けることで、国からの補助を受けることも可能であるが、県の見解を伺う。</p>
(会員C)	<p>県では地域公共交通計画を策定する予定はない。</p> <p>また、沿線市町に対し、地域公共交通計画の策定予定を伺ったところ、令和5年度中に、計画を策定すると伺っていることから、バス事業者は引き続き、補助を受けられるものと認識している。</p> <p>なお、国補助申請に関する計画書の作成は、現在県で行っていることから、今後も、沿線市町との調整や、計画書の作成に関する助言等の支援は行っていきたいと考えている。</p>
(会長)	<p>埼玉県も自治体によって独自に策定しており、幹線系統を持つ自治体の会議体に私が入っており、調整可能であった。</p> <p>一方、神奈川県は幹線系統が入っている自治体全てに私が入っているわけではないので、県にもフォローをお願ひしたい。</p>
(会員C)	<p>承知した。</p>
(会長)	<p>今後、作業部会を開催しながら検討を進めていくということになる。</p> <p>前計画策定時にはPASMOMOのデータを部分的に活用させていただきながら計画策定をした経緯があるが、そういったデータの提供については引き続き事業者にも協力をお願ひしたい。</p>

・報告事項（２）橘地域バス路線の再編について	
（事務局）	資料 9 に基づき説明
（会員 B）	今回の再編については、小田原市と連携しながら、地元への早めの周知を行ったことから、大きな混乱もなく、進められた。また、再編前後で収支の改善も見られた。中井町役場～県道 709 号線ご利用の方は国府津方面より二宮方面にシフトしている状況である。1 年前に比べると二宮方面で利用者が増加している。状況報告としては以上となる。
（会員 D）	この再編は、地域にとっては、厳しい結果となっているが、利用実態からすれば、これが現実かと思う。地勢的な関係から、橘地域からは二宮駅へ出る移動ニーズが多く、経済的なつながりも強い。地域の高齢化・少子化の影響を受けた結果でもある。 厳しい状況の中で、今後、どのように地域公共交通の維持に取り込んでいくか。何とか利用率を向上するとともに、利便性の向上、高齢化への対応も含めて、公共交通のあり方をご検討いただきたい。
（会長）	1 台当たりの輸送人員は採算ベースの目標値は達成していないものの、当初想定より 23% 増加という結果はすごいことと感じる。バスでやれるところがどこまでか、という追及は出来た。 一方、橘地域は、タクシーのサービス圏域の境に位置しており、隣接する別の圏域である二宮側からタクシーを呼べない、という状況もある。 公共交通計画の策定の中でも、引き続き専門家を交えた地域検討会でも検討されるとのことだが、この協議会においても具体化に向けて検討していければと思う。
・報告事項（３）片浦地域バス路線の再編について	
（事務局）	資料 10 に基づき説明
（会員 E）	小田原市様、利用者の方々に多大な理解を頂きながら、乗降実態調査、地元説明会等ご尽力いただきながら運行している。今後 1 年どのような状況になるか分からない。また、テレワーク、燃料の高騰と厳しい状況もある。 今後も精力的に交渉していきたいと考えている。 今回の件について、ご協力いただき感謝する。
（会長）	地域での検討会については区切りがついたのか。
（事務局）	これまで 4 回開催し、路線バスを維持することの重要性について、地域の皆様にご認識いただくとともに、地域で行う利用促進策や目標値を設定することで、引き続

<p>(会長)</p>	<p>きバス路線を維持・確保に努めていくこととした。今後は、利用状況を共有しながら、目標の達成状況を注視していく。</p> <p>バス利用者を増やすためには、地域側にも活動をしてもらうことが必要になってくる。橘地域のように長い間地域での検討が続いている地域もある一方で、そのような活動をしなくても補助なしで路線バスが残っている地域もある。何で自分たちだけ頑張らなければいけないのか、という意見が出る可能性もある。そのため、地域で検討することの重要性を説くとともに、活動に関わっている地域住民を積極的に支援する必要がある。</p> <p>便数が半減しても利用者が3/4ほどにとどまっているということから、通勤・通学利用が多い、早川駅より先での乗降にも需要があるということかと思う。どう路線を残していくか、という部分について妥当な結論かと思う。引き続き協議会でも状況をみていきたい。</p>
<p>・報告事項(4)配車システム「福祉Mover」を活用した取組について</p>	
<p>(事務局)</p>	<p>資料11に基づき説明(高齢介護課)</p>
<p>(会長)</p>	<p>今年度実施するのは送迎を無償で行い旅行法にまつわる料金のやり取りは発生しないということか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>運送に関しては無償である。システム運営費の負担を実験で行うかという点については検討中である。</p>
<p>(会長)</p>	<p>第三種旅行業で仲介料を取るのには小田原市では難しいのではないかと。他市での導入にも関与しているが、全くうまくいっていない。</p> <p>ついでに送迎で良い面としては外出支援になるということだが、システム手数料等の部分は調整が必要である。</p> <p>他の市では協議会の場に話が上がってこないため、導入の検討においてハレーションが起きるケースもある。</p> <p>こういった協議会の場で引き続き意見交換をさせていただきたい。</p> <p>仙台市では、社会福祉法人が自家用有償の登録を取って有償で運行しているが、そちらの方法の方が現実的であり、自家用有償運送の枠組みで行えば複雑な調整を回避できる。</p> <p>こういった協議会、場合によっては作業部会等クローズな場も活かしながら検討進めていければと思う。</p> <p>色々注目される取組みだが、どのように地域になじませていくのか、という点で、議論を深めていければと思う。</p>

(会長)	<p>(その他、委員より質問・意見等なし)</p> <p>今回、久々の対面の協議会であった。特に今年度から来年度にかけては新しい公共交通計画の策定がされる。橘地域、片浦地域等でも話があったが、バス路線の維持が難しい状況や、バス以外の選択肢も視野に入れる必要が出てきている状況も見られる。福祉分野の新しい取組みも出てきており、福祉と交通が密接に結びついた展開も可能性がある。</p> <p>事業者の皆様には先ほどデータ提供のお願いをさせていただいたが、引き続きご協力いただきながら、知恵をしばりながら検討を進めていければと思う。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------	--